

福祉ガバナンス宣言

— 市場と国家を超えて
(岡澤憲芙・連合総研 編著 日本経済評論社)

現代福祉国家の再構築Ⅳ「現代福祉国家への新しい道研究委員会」(*主査)

*岡澤 憲芙 (早稲田大学教授)	坪郷 實 (早稲田大学教授)
後藤 玲子 (立命館大学大学院教授)	濱口桂一郎 (政策研究大学院大学教授)
駒村 康平 (慶應義塾大学教授)	久塚 純一 (早稲田大学教授)
斉藤 弥生 (大阪大学大学院准教授)	広井 良典 (千葉大学教授)
白波瀬佐和子 (東京大学大学院准教授)	宮本 太郎 (北海道大学大学院教授)
神野 直彦 (東京大学大学院教授)	逢見 直人 (連合副事務局長)
武川 正吾 (東京大学大学院教授)	小島 茂 (連合生活福祉局長)

連合総研は、2002年度から「現代福祉国家の再構築」をテーマとしたシリーズ研究を進めてきた。これを締めくくるものとして2006年1月に「現代福祉国家への新しい道研究委員会」を立ち上げ、20世紀型福祉国家リニューアルの視点から現代福祉国家への新しい理念・デザインとこれを実現する主要課題のあり方等について調査・研究を行った。

本書はこの報告書であり、総論では、研究全体の結論として「21世紀福祉ガバナンス」論を提起し、以下の各章において、この新しい福祉ガバナンスを実現するうえで不可欠な主要課題について論じるとともに、これからのあり方について提言した。終章では、社会変化と生活様式の変容に対応した政策課題とそのプライオリティについて指摘し、加えて、現代福祉国家のあり方を論じる際の関心テーマについて研究委員同士の対談を掲載し、各論文では必ずしも触れられなかった点を補足した。

本書で提起した方向は、市場主義とも、かつての利益誘導型「土建国家」とも、さらには20世紀型福祉国家とも異なる、いわば「第4の道」ともいえる新しい選択肢である。

目次

はじめに	— 20世紀型福祉国家を超えて
総論	新しい福祉ガバナンスへ—もう一つの選択肢 (宮本太郎)
対談	「現代福祉国家の新しい道とは何か」 宮本太郎×佐川英美
第1章	生涯を通じたいい仕事—福祉社会のコア (濱口桂一郎)
第2章	不平等感の高まり—一人々の意識の背後にあるもの (白波瀬佐和子)
対談	「若者はどこまで支援されるべきか」 白波瀬佐和子×久塚純一
第3章	新たな時代の社会保障・医療政策を構想する (広井良典)
第4章	就労を中心にした所得保障制度 (駒村康平)
対談	「ミニマム保障は強めるべきか」 後藤玲子×駒村康平
第5章	社会的公正と基本的生活保障 (後藤玲子)
第6章	女性環境の整備と福祉—ワーク・ライフ・バランスの視点から (斉藤弥生)
対談	「北欧はモデルか」 斉藤弥生×武川正吾
第7章	東アジアから見た日本の福祉ガバナンス (武川正吾)
第8章	福祉多元主義の時代—新しい公共空間を求めて (坪郷實)
対談	「NPOは雇用の受け皿となるか」 坪郷實×濱口桂一郎
第9章	社会連帯の創造と排除 (久塚純一)
第10章	マクロの経済発展と福祉 (神野直彦)
対談	「成長なき福祉は可能か」 神野直彦×広井良典
終章	生活様式の変容と福祉ガバナンス—ダイバーシティ・ウェルフェア・マネジメント (岡澤憲芙)